

会議議事録

会議名	2023年度第1回 東京工科自動車大学校三校 教育課程編成委員会	専門学校 東京工科自動車大学校 専門学校 東京工科自動車大学校世田谷校 専門学校 東京工科自動車大学校品川校
開催日時	2023年6月2日（金） 15:00 ～ 17:00	
会場	東京工科自動車大学校 123教室	
参加者	委員	21名 【出席者16名】 ◇1級教育課程分科会 ・佐藤 康夫（全体会議長、1級分科会議長） ・園田 幸祐 ・保田 正義 ・川越 泰明 ・在田 泰彦 ・宮谷 真樹 ・八重尾 聡洋 ・吉岡 晃（書記） ◇2級教育課程分科会 ・松村 道隆（2級分科会議長代行） ・武井 和則 ・国分 秀貴 ・山岸 幸弘 ・永野 英臣 ・清 宏一郎 ・高玉 幸雄 ・奥山 美都留（書記） 【欠席者5名】 ・澁谷 健 ・蓬田 誠 ・佐藤 岳人 ・佐々木 真人 ・高橋 拓也
	事務局	2名 ・井上 真一 ・田中 健司（全体会書記）
全体会 配布資料	————— 全体会 —————	
委員長挨拶	<p><配布資料></p> <ul style="list-style-type: none"> ・議事次第 ・資料A・・・全体会説明資料（パワーポイント） ・資料B・・・委員名簿 ・資料C・・・前回議事録 <p>開式に先立ち、井上部長より配布資料の確認、本日のスケジュールについて説明し佐藤委員長にバトンタッチする形で全体会がスタートした。</p> <p>委員長挨拶のなかで、学園組織の変更について説明を行った。</p> <p>中野校校長 佐々木から佐藤に代わり中野校、世田谷校の校長に就任し兼務する。品川校の校長に副校長の澁谷が就き、三校の運営本部長として佐藤が就き全体を統括する。また委員の窓口として世田谷1級自動車エンジニア科科長の井上が企画部部長として就任したことを説明された。</p>	
委員の紹介	<p>事務局より新任の委員紹介を行った。時間の都合上自己紹介形式（資料B）</p> <p><外部委員></p> <p>日産東京販売株式会社 川越泰明 様 トヨタモビリティ東京株式会社 在田泰彦 様 ウエイズトヨタ神奈川株式会社 八重尾聡洋 様 株式会社トラッドインターナショナル 高玉幸雄 様</p>	

令和4年度
実績報告

<内部委員>

中野校1級自動車整備科 吉岡晃
品川校自動車整備科 奥山美都留

佐藤委員長より資料を基に報告された。(資料A)

<学校関係者評価、教育課程編成 各委員会実績>

職業実践専門課程の概要をからめ、学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会の必要性・主旨を含め新任委員の方にも解かりやすく説明された。

各委員会、分科会については1級、2級に別れカリキュラムについて討議されたことを報告された。

<就職実績>

内部的に8月末100%の就職内定率を目標としているが若干目標に届かず94%であった。しかし3月末には全員内定を取ることができたことを報告し、皆様の協力に対して謝辞を述べた。

<整備士国家試験合格実績>

表を基に1級・2級の実績を虚心坦懐に説明された。

1級については当校の昨年実績に比べ落ちているものの全国平均的の成績を残すことができた。筆記90.6%、口述98.3%、最終89.1%

2級整備士についてはガソリン・ディーゼル両方取得することが目標にしているが最低限どちらかを取得すれば整備士として仕事ができる。2級整備士としての合格率でみれば中野世田谷、品川共に100%の合格率達成することができた。

ガソリン96.7%、ディーゼル99.6%、両方取得96.3%、どちらか取得100%

分科会議長、
書記の選出

事務局より

<1級過程分科会> 議長:佐藤委員長 書記:吉岡委員

<2級過程分科会> 議長:松村委員(代行) 書記:奥山委員 で行う旨の提案があり拍手をもって了承された。

次回日程

連絡事項として次回(第2回)の日程が10月6日(金) 15:00~17:00で実施することを伝えられ、予定の調整をしていただくようお願いがなされた。

追伸

最後に佐藤委員長より、松村委員の職制について説明がなされた。

これから先、令和9年に実査される国土交通省の試験制度変更に対応すべく3校のカリキュラム全体を見据えながら統一的に取り組む為にカリキュラムリーダーという職制を設けいち早く対応している旨の説明がなされた。

会議風景



<p>1級分科会</p> <p>配布資料</p>	<p style="text-align: center;">————— 1級教育課程分科会 —————</p> <p><配布資料></p> <ul style="list-style-type: none"> ●令和4年10月7日実施令和4年度第2回1級分科会議事録(抜粋)資料 ●令和4年検討事項でのカリキュラム案3軸についての具体的資料(コマシラバス) <ul style="list-style-type: none"> ①ビジネスマナー(案) ②顧客対応実務(案) ③コミュニケーションスキル(案) ●JAMCAソーシャル検定テキスト(参考資料)
<p>協議事項</p>	<p>1. 前回の協議内容について及び参照資料についての説明</p> <p>(佐藤委員長)</p> <p>令和9年施行の整備士資格制度見直しでの口述試験廃止に伴い、現在行われている口述試験対策に合わせたカリキュラムを、新たなカリキュラムに再編成する必要があり、この新カリキュラム作成について、昨年度の教育課程編成委員会での検討事項として提案された3つのカリキュラム案「ビジネスマナー・顧客対応実務・コミュニケーションスキル」を基に、忌憚のないご意見を頂きたいと説明がなされた。</p> <p>(園田委員)</p> <p>①ビジネスマナー ②顧客対応実務 ③コミュニケーションスキル それぞれのカリキュラム内容について詳細な説明がなされ、その内容や適切なコマ数等についてご意見を頂きたいと要望があった。</p> <p>2. 前回会議内容及び資料についての質問及び意見</p> <p>(園田委員)</p> <p>各企業様は、入社後の新人研修でどの様にビジネスマナーを取り入れてるのか？ 各社の新人教育について教えていただきたい。 また、今回の協議事項の内容について新人研修の観点からアドバイス頂きたい。</p> <p>(学外委員1)</p> <p>コマシラバスコミュニケーションスキル内「傾聴」の中に、「言葉の言い換えの有効性」を是非入れていただきたい。実社会やビジネスシーンにおいて、同じ意味をなす言葉でも状況に応じて言い換えはとても重要になってくる。</p> <p>(学外委員2)</p> <p>コミュニケーションスキルに資料内にある社外文書及び電子メールは、ビジネスマナーのカリキュラムに含まれるのでは？ 弊社が実施する新人研修におけるビジネスマナーでは、文章やメールで全て方に言葉の齟齬がなくまったく同じに伝わることを重要視している。</p> <p>(佐藤委員長)</p> <p>これまでの質疑内容を踏まえ、具体的な資料としてJAMCA発行のソーシャル検定教本を、各学外委員の方々にお示しながら、学内でのソーシャル検定試験の実施状況やビジネスマナーの取り組みについて説明された。</p>

(学外委員3)
ビジネスマナーについてのカリキュラムが導入された場合、いつ頃行われますか？
(園田委員)
1級科の授業としての導入は、4年生のインターンシップ受け入れ前の1期ぐらいに考えている。

(学外委員3)
同意します。インターンシップ受け入れ前がよいと思う。
この3つのカリキュラムについては非常に専門性高い内容度と考えるが、学校の教員が行うのか？
例えば、コミュニケーションスキルにおけるロジカルシンキングなどは、かなり高度な専門知識が求められる。
専門的な教育については、学校からの依頼があれば内定先の企業が行ってくれるのではないのか？
各企業によって内容や、展開方法が異なってくるためその方がよいと考えるが？

(園田委員)
企業様で取り入れている方法で行うのが望ましいので、専門的な内容に関しては外部での研修をと考えている。

(学外委員4)
1級分科会から話はそれるが、2級過程でも取り入れは可能か？
2級過程は2級取得後の就職となるため全学年での対応をして頂きたい。
また、就職してから現場で身に付ける部分と、学校で身に付ける部分をしっかりと精査する必要がある。
学校生活の中で、コミュニケーションスキルが身につくような取り組みも必要なのではないか。

(学外委員3)
あいさつの励行や報連相など、普段からの学校生活で身に付けて頂けるものはご指導頂きたい。
また、カリキュラムの落とし込みを行う時には、内容のボリュームを考えて行うようにした方がよいのではないか。
1級過程の学生にはより高度な内容を入れて頂きたい。

3. 新カリキュラムに必要な要素

(学外委員2)
コミュニケーションスキル及びビジネスマナーは1、2年生も必要だと考える。

(佐藤委員長)
今回のカリキュラム導入については、口述試験が実技試験に移行する事によって、就職後の顧客対応においてその能力が低下することを防ぐ意味合いがある。
整備士試験が見直されることにより、1級整備士のカリキュラムにおいて、新技術に関する内容が多くなる可能性がある。
口述試験に直結する総合診断の授業コマ数は30コマであり、このコマ数の中から新技術に割く時間が必要なのではないかと考えている。
したがってコミュニケーションスキルやビジネスマナーについては、15～20コマぐらいで完結するような内容となるのではないか。

(学外委員2)

顧客対応実務をベースとして、それぞれのカリキュラムの中からコマを取捨選択し、作成してはどうか？15～20コマぐらいで。

その根拠としては、実業務での一番コアになる部分は、整備説明の基本的な部分であり、お客様に対して満足していただける部分をより深く追求することが必要だと考えるから。

(学外委員5)

コミュニケーションスキルはカリキュラムに必要不可欠だと考える。同僚、上司、顧客、いずれにしても話す、伝える、理解していただくが重要だと思う。

(学外委員3)

読解力はカリキュラムに是非入れて頂きたい。社会に出て必要。

(学外委員1)

最近の若者は新聞や本を読まない。手紙などの長文文化に触れていないため読む力を養う意味で。

(佐藤委員長)

読解力については、1級試験を受験する上でも必要不可欠。限られた時間で内容を正確に読み解く力が必要だと考える。

4. 今後の方向性まとめ

1) ビジネスマナー・顧客対応実務・コミュニケーションスキルについて内容を精査し、15～20コマ程度にまとめた内容を提案し検討する。

2) ソーシャル検定テキストを基にビジネスマナーを2級過程も含めカリキュラムとして検討する。

次回会議では、内容を整理・検討したものを学内委員より提案することとして会議を終了した。

1 級分科会風景



<p>2級分科会</p> <p>配布資料</p> <p>協議事項</p>	<p style="text-align: center;">————— 2級教育課程分科会 —————</p> <p>【2級教育課程分科会】</p> <p><配布資料></p> <ul style="list-style-type: none"> ●文部科学省 委託事業および高校との個別連携の推進報告 ●高専連携シラバス <p>議長より欠席の報告 議題3件概要確認 高専連携推進事業部紹介</p> <p>I 東京工科3校カリキュラム変更状況について</p> <p>議長 中野校状況説明 科目削減の理由は新しい授業を取り入れるための準備を行うため先行して実施。 優先順位を検討し低いものを4科目(60時間程度)削減した。 削減後の科目で昨年4月より運営。 噴射ポンプ、AT実習、危険物、ガス溶接について削減。 まだ卒業生が出ていないが今のところ問題の報告はない。 新教科書が発行されてから新科目の検討に入る</p> <p>武井委員 世田谷校状況説明 噴射ポンプ、危険物、ガス溶接について削減。 AT実習については削減していない旨を報告。 今年度からの実施の為今のところ問題はない。</p> <p>奥山委員 品川校状況説明 世田谷校と同様今年度からの実施であり今のところ問題はない。 ソーシャル検定に関してもこれからである旨を報告。</p> <p>武井委員 ソーシャル検定について説明 ビジネス検定の自動車版であり実施時期を検討し2年次に受験する事とした。 よって今のところ問題はない。</p> <p>II 高専連携授業の目的と運営について意見交換</p> <p>議長 高専連携は昨年より実施しており、1年間の実績報告を行う旨を伝える。 自動車業界に興味を持ってもらうために高校と連携して行っている事を伝える。</p> <p>二ノ宮 活動内容について配布資料に基づき説明。 先端技術開発(AR)について。 高専一貫プログラムについて。</p>
---	---

12回及び後期追加分の内容について資料を配布し説明。
今後も続けていく上で企業様の協力を依頼。

Ⅲ 新しい整備士制度の移行に向けての情報交換

議長

新制度に関して説明。

9月に3級の新教科書が発行されるとの事であるが現状進展が見えない状況である。

奥山委員

JAMCAでの状況を報告。

3月にJAMCA教科書委員会にて日整連を訪問し、新教科書に関するヒヤリングを行った事がまだはっきりした事が決まっていないことを説明。

議長

本日の3つの議事について各委員に意見をお願い。

学外委員1

高専連携事業について、教習所での体験は非常にいいと思う。

現在、自分で運転する楽しみを体験できる施設が少ないように感じる。

機会が増えればもっと自動車に興味を持ってもらえるのではないかな？

大型車両やEV等、変わり種の車を用意してみるのも一つの手ではないかな？

地方ではトラクターヘッドを使って同乗体験を行っているが自分で操作する方が喜ぶのではないかな？

武井委員

大型車両のエンジンを始動するだけでも効果があるのでは？

学外委員2

高専連携事業を他校(小山学園以外)ではこのような取り組みは行っていないのかな？

他校との繋がりがあればもっと広がっていくのではないかな？

議長

他校では行っておらず、小山で成功すれば他校が付いてくる事となるのではないかな？

小山では東京工科とテクニカルカレッジで多様な業種を行っている。

学外委員2

高専連携への協力は、藤沢の研修施設に来ていただければ協力は可能である。

また浦安の工場であれば多少の作業体験は可能。

学外委員3

高専連携事業では、自動ブレーキ、誤発進、自動車庫入れ、ツナギの試着等の体験が可能。

ツナギの試着はイベントで好評である。

学外委員4

国土交通省の施策でいきなり職業体験を行っているが、それよりもまずは車に興味を持つことが重要ではないかな？

小山学園で行っている体験は共感できる。

取り扱いのあるブランドでエンジン始動等の体験は可能である。
タクシー、観光バスの法人もあるので交通に関しても協力できるかもしれない。
高専連携事業に国交省から交通費などの補助はないのか？

二ノ宮

生徒に対する補助は現状行っていない。

学外委員5

高専連携事業、オープンキャンパスなどにデモカーを高校等に持ち込み展示などの協力は可能かもしれない。

各社でまとめて車両を持ち込んでみるのはどうか？

校庭であれば大型車等も可能ではないか？

学外委員1

入口が広ければダカール車の搬入も可能。

学外委員1

その他の質問として、今年度の2級の合格率が、馴染みが薄く感じるディーゼルの方がガソリンよりも高いのはなぜか？

議長

今年度、ガソリンの問題は捻ったものが多かった。

ディーゼルはスタンダードな問題が多かった。

2 級分科会風景

次回は10月に開催する旨を伝え会議を終了とした。

